

次世代知的オフィス環境

知的オフィス環境コンソーシアムが目指す
オフィスイメージ

オフィスで働く1人ひとりの仕事内容や好みに合った環境を提供し、作業効率や創造性を高め、疲労度やストレスを軽減する。人間、業務、場所、時間などさまざまな条件に応じ、最適な状態を実現してオフィスの快適性、機能性を高める。

知的照明

人工知能が組み込まれた照明、電力計、各種センサーから成る。仕事内容や働く人の好みに応じて、必要な場所に必要な照度と光色を個別分別的に提供する。

知的空調

温風・冷風の可変的吹き出し、発熱・吸熱体、温度センサーなどから成る。働く人の体調や快適さに応じて、適切な環境温度を個別分別的に提供する。

知的照明と知的空調の連携

窓のブラインドの開閉、照明の強弱、空調の強弱などを総合的に判断し、省エネルギー性と快適性の観点から最適な環境をつくり出す。

モチベーション向上 省エネ効果にも大きな期待

照明や空調以外にも、創発的な知的作業を促すための照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。

照明や空調の連携による省エネ効果も期待

照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。

オフィス環境を考える

～快適ビジネスライフのすすめ～

広告特集

三木光範 同志社大学大学院教授に聞く

「人間中心」のオフィス空間つくる

知的生産性の向上へ

働く人が1日のなかで多くの時間を過ごす、オフィス。これまでは均一化された空間が当たり前だったが、価値観の多様化が進む中で、オフィスに求める価値観も大きく変化している。創造性を発揮して生産性を高めるオフィス環境の作りかたが、どのようになっているか。知的オフィス環境の調査を進める同志社大学の三木光範教授に聞いた。

知的生産性の向上へ

日本のオフィス環境は、欧米に比べて均一化された空間が当たり前だったが、価値観の多様化が進む中で、オフィスに求める価値観も大きく変化している。創造性を発揮して生産性を高めるオフィス環境の作りかたが、どのようになっているか。知的オフィス環境の調査を進める同志社大学の三木光範教授に聞いた。



同志社大学
大学院 工学研究科 教授

三木光範氏

みき・みつたのり。1950年生まれ。同志社大学工学部卒業。大阪府立大学大学院工学研究科博士課程修了。製造設計、並列処理などが専門。2006年、民間企業と共同で「知的オフィス環境コンソーシアム」を設立。会長に就任。

均一化から脱却し 個別選択できる仕組みを

仕事を促す働き方を実現する

照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。照明や空調の連携による省エネ効果も期待されています。

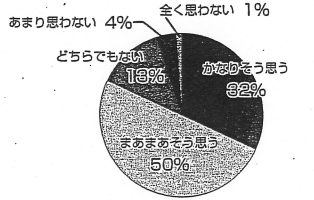
オフィス環境を考える

～快適ビジネスライフのすすめ～

広告特集 企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局

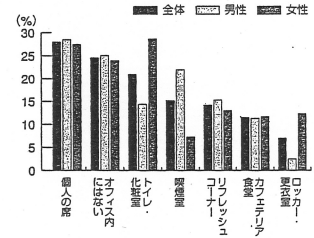
4人に1人「リラックスできる空間無い」

あなたにとってオフィス環境は仕事の生産性を左右する要因ですか



出典：経営クリエイトのインターネット調査

リラックス、リフレッシュできる場所



出典：みずほ総合研究所のインターネット調査

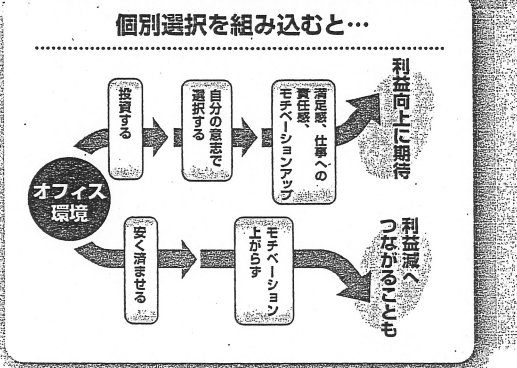
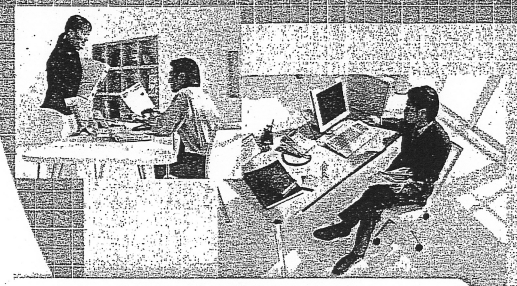
「リラックスできる空間が無い」と感じる人は全体の4人に1人。また、男性は女性より「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

また、男女別の調査結果によると、男性は女性よりも「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

「リラックスできる空間が無い」と感じる人は全体の4人に1人。また、男性は女性より「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

また、男女別の調査結果によると、男性は女性よりも「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

職場の環境、8割のワーカーが重視



「リラックスできる空間が無い」と感じる人は全体の4人に1人。また、男性は女性より「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

また、男女別の調査結果によると、男性は女性よりも「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

身近なところから快適空間づくり

働く人自身が改善している、身近なオフィス環境づくりもある。

まずはデスク周りの整理整頓。忙しさを理由に、気づけば書類や資料が右に左に足元に山積みという人も少なくないのでは？

このような環境では、落ち着いてもの考えられなかったり、なんとなくイライラしてしまったりする原因にもなる。書類探して無駄な時間を過ごすのも非効率だ。 unnecessaryなものは処分し、本当に必要なものを整理して何がどこにあるか把握するだけでも、頭の中もすっきりする。気持ちの余裕も出てきて、スムーズな仕事運びにつながるはずだ。

オフィスが暑すぎたり寒すぎたりというのは、誰もが目撃していることだろう。デスクワークですとオフィ

スにいる人などは特に、カーディガンなどを置いておき体調に合わせて脱ぎ着するなど、自分で調整できるようにしておきたい。最近では、パソコンのUSB端子に接続して使えるUSB家電が増え、加湿器や電気ヒーター、マイカップの保温ができるカップウォーマーなどが続々登場している。そんな便利グッズを活用するのも1つの手だろう。

また、エチケットを守ることも快適空間づくりの要素の1つ。基本的なことだが、風邪や咳(せき)が出る時はマスクの着用を忘れずに。デスクで飲食する時は、食べる音やにおいには注意しよう。ガムをかむ音を気にする人も少なくないので、周囲に不快な思いをさせないように配慮したい。

変化を楽しみ、創造性豊かに

「リラックスできる空間が無い」と感じる人は全体の4人に1人。また、男性は女性より「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。

また、男女別の調査結果によると、男性は女性よりも「リラックスできる空間が無い」と感じる割合が高いことが分かった。